

アジアの学生の高専体験プログラム 2011 報告

報告 明石高専 松田 安隆教授

アジアの学生の高専体験プログラム 2011を平成23年9月12日(月)から17日(土)に明石高専で開催しました。本プログラムはアジアの学生たちに高専での学習や寮生活を体験してもらい、将来日本への留学のきっかけとなることを目的に実施しています。本年度は10のアジアの国と地域から13チーム56名の学生と引率教員が参加し、明石高専からも13名の学生がそれぞれのチームのアシスタントとして参加しました。

1日目午前の開講式では、歓迎の挨拶の後、国立高専機構・木谷理事による高専の紹介・解説がありました。引き続きオリエンテーションで、プログラムの概要説明と参加者による自己紹介が行われました。午後からの明石高専キャンパスツアーでは、実習工場や各学科の実験設備等の見学を行いました。また、1日目と2日目を通して参加チームごとによる学校や自国の紹介が行われました。2日目は明石高専の教員と学生による4学科の模擬授業を体験しました。3日目午前には神戸製鋼所と川崎重工の2班に分かれて工場見学をし、午後からは2班が合流して人と防災未来センターと明石海峡大橋の見学をしました。最終日にはものづくり体験授業を実施し、機械工学科はフォトフレームの作成、電気情報工学科は3DCGの作成、都市システム工学科はブリッジコンテスト、建築学科は姫路城の修理見学と兵庫県立考古学博物館見学を実施しました。

本プロジェクトはすべての期間を通して、英語を共通語として実施しています。当初は参加学生にとっては戸惑いもありましたが、次第にコミュニケーションをとることに慣れてきて、閉講式及びお別れ会ではそれぞれが有意義であったプログラムを振り返り、今後も互いにつながりを持ち続けることを誓い、名残を惜しんでいました。



▲明石海峡大橋の見学



▲ものづくり体験授業の様子

ISATE 2011 in Singapore に参加して

報告 茨城高専 奥山 慶洋准教授

平成23年9月27日(火)から29日(木)まで、シンガポールのリパブリック・ポリテクニク(Republic Polytechnic)で開催されたISATE 2011研究大会は私の予想をはるかに越えた素晴らしいものでした。開会式では、国立高専機構とシンガポールの5つのポリテクニクとの交流協定書調印式が行われました。その後も基調講演や現地学生らによる歓迎行事など盛り沢山の内容で時間が経つのを忘れるほどでした。午後から2日目にかけては分科会での研究発表やワークショップ、キャンパスツアーが行われました。特に、キャンパスツアーで見たエアバス機のシミュレーターは実際にパイロットが訓練で用いているものと同じだと聞き大変驚きました。分科会では、工学ばかりでなく高専教育全般にわたる様々なテーマがあり、英語教育を専門とする私も口頭発表を行いました。フロアからは数々の貴重なコメントをいただくことができ、大変有意義なものとなりました。2日目の夕方には夕食会が催され、現地の先生方との懇親を深めることができました。3日目は、私は帰国便の都合で参加できませんでしたが、研修ツアーで現地の会社訪問が行われました。来年度は北九州で開催される予定であり ISATE の益々の発展を期待します。



▲高層ビルが林立するシンガポール市街



▲開催会場の風景



▲開会式で行われた調印式の様子

マラ工科大学国際教育カレッジ学長の来訪

報告 八戸高専 阿部 恵教授

マラ工科大学国際教育カレッジ(INTEC)のファジア・ノルディン学長をはじめ6名が、八戸高専で開催された国際シンポジウム『低学年生』からの国際的技術者養成—日本とマレーシア』に出席するため、平成23年11月3日(木)から5日(土)の3日間、本校を来訪されました。

シンポジウムでは、ファジア・ノルディン学長から、「INTECの国際戦略」についての講演が行われ、INTECが私立大学化により自立性を高め、国際展開を拡充しようとしていることについて説明があり、会場からの質問にも詳しく答えてくださいました。

2日間、木谷理事、八戸高専マレーシア留学生OBで富士通マレーシアに勤務のシャリフ氏、両国の教員による講演、研究発表、パネルディスカッションなど、積極的な意見交換が行われ、ファジア・ノルディン学長はパネリストとして、国際的エンジニアや国際力について意見を述べられました。本校の International Friendship Club(IFC)主催の学生の研究発表にも熱心に耳を傾けてくださいました。3日目は八戸キャンオン、種差海岸、東日本大震災で津波の被害をうけた地域などを訪れ、時折質問を交えながら津波の被害の大きさに驚かされておりました。ファジア・ノルディン学長のお人柄もあり、終始和やかな雰囲気で行われ、シンポジウムを終えることができました。

今後も日本とマレーシアの相互交流の一層の推進が期待されます。



▲2日目シンポジウム参加者



▲ファジア・ノルディンINTEC学長の講演



▲学生の研究発表を終えて記念撮影

香港の Vocational Training Council と学術交流協定を締結

国立高専機構は、平成24年1月9日(月)に香港において、VTC(Vocational Training Council: 香港職業訓練協議会)と包括的学術交流協定を締結しました。国立高専機構としての交流協定締結は、シンガポールの5ポリテクニク、タイのキングモンクット工科大学ラカバン校に続き3件目となります。

この協定は、平成21年に熊本高専が、VTCを構成している香港各地の職業訓練教育の実施機関13校の中の、高専と同様な準学士の学生を輩出する教育機関である Hong Kong Institute of Vocational Education(IVE)と交流協定を締結し、活発な相互交流を展開してきたものを発展拡大させ、国立高専機構全体の取組としてさらに強化することで双方が合意したものです。なお、IVEは2012年から学士課程プログラムの導入を開始することとしています。

調印式には、国立高専機構・林理事長と香港VTC・Dr.Carrie Willis, Executive Director が列席して行われました。今後は、IVEとの交流を中心に、全国51国立高専の学生及び教職員の学術・文化交流、共同セミナーやシンポジウム等の企画・実施など、積極的な活動を展開してまいります。



▲林理事長と Dr.Carrie Willis, Executive Director



▲講演する林理事長

平成23年度テマセク・ポリテクニク技術英語研修報告

報告 熊本高専 宇ノ木 寛文准教授

平成23年9月12日(月)から23日(金)まで、シンガポールのテマセク・ポリテクニク(以下「TP」)において技術英語研修が開催され、全国の高専から選抜された20名の学生が参加しました。この研修はTPと国立高専機構の交流事業の一環として、同校の多大なる協力を得て実現したもので、今回は、科学技術研究の諸場面で英語を実践的に用いることを目的としたカリキュラムが構成されました。具体的には、研究概要の作成及びポスター作製技術の習得、プレゼンテーション技術の伸長、TP学生との交流を通じた異文化理解の促進をプログラムの目標としました。参加学生は市内のホステルで共同生活しながら貴重な研修に臨みました。

授業はレポートライティングから始められ、まず全体の構成や科学技術英語の特徴等について講義を受け、講義の進捗に従って各自のレポートを仕上げていく形で進められました。その後、作成したレポートに基づいたプレゼンテーション用スライドやポスター作成についての講義へ発展し、最終的には実際のプレゼンテーションやポスターセッションへと繋がられていきました。講義は、カリキュラムデザインの段階からのTPスタッフの努力により、短期間で最大限の効果が得られるよう論理的に構成されており、それを実現したスタッフの献身的かつ情熱的な姿勢には心から敬服し感謝申し上げた次第です。参加学生もそれに応えて授業や課題に意欲的に取り組み、実際のプレゼンテーションやポスターセッションでも堂々と発表や質疑応答を行う姿が見られ、研修が有意義なものであったことを印象付けました。

他にも、Nanyang Technological University 見学や市内を活動の場としたPBLセッションなどTP学生と共同で行った講義以外のプログラムも多彩で、学生たちには得難い異文化交流体験となりました。TPの学生は非常に協力的かつ友好的で、Farewell Party では別れを惜しみ涙を流す参加者も双方に数多く見られ、異文化交流の充実度を物語っていました。

士気の高い学生たちが互いに鼓舞し、助け合いながら学習に取り組む今回の研修は、高専生に新たな視点を与え、またその可能性を引き出す一助となったという点で、引率教員の立場からも非常に刺激的な得難い経験でありました。同時に、こうした取組そのものが、高専という教育機関の価値の再評価にも資する効果的な事業であるとも認識しており、次年度以降もこうした機会をさらに多くの学生と共有することができればと考えています。



▲授業での一コマ



▲閉会式にて修了証を授与



▲プレゼンテーションの様子

▲ポスターセッションの様子

国立高専機構主催平成23年度海外インターンシップ

国際交流室

国立高専機構主催の海外インターンシップは、平成20年度以来拡大を図っており、平成23年度は、新たに第1次日程として夏季休業中の派遣を実施しました。また、新規受入れ協力企業として(株)荏原製作所、(株)カネカ(第1次日程)、TANAKAホールディングス(株)(第2次日程)の3社にご賛同をいただき、第1次日程(夏季)で3社3カ国7名、第2次日程(春季)で6社6カ国14名、計9社9カ国21名の派遣を行うことになりました(右記表参照)。

事前研修

本年度から、平成23年7月に三井物産(株)にて行われた平成22年度派遣者報告会に今年度第1次日程(夏季)の派遣者が参加しました。先輩たちの熱のこもった発表を聞き、積極的に質問をしていました。

平成24年1月に行われた第2次日程(春季)の事前研修では、新しい取組として、英語ネイティブスピーカーの明石高専・J.C.ハーバート先生によるサバイバル・イングリッシュや、受入れ企業の(株)荏原製作所・木村憲雄執行役員により、これからのグローバルエンジニアに求められる姿とは何か、「海外と働く」と題してご講義いただき、また卒業生を招き後輩に向けて講義を行ってもらうなど、より一層内容の濃いものとなりました。

事前研修では、受入れ企業をお招きし、派遣先のオリエンテーションを行っており、企業側と学生側が初めて顔を合わせる機会となります。ご出席いただいた企業からは、高専生への大きな期待が寄せられ、学生も説明に真剣に耳を傾けていました。



▲受入れ企業による派遣者説明会



▲(株)荏原製作所・木村執行役員による講義



▲サバイバル・イングリッシュ

派遣概要

第1次日程(夏季)	NO.	受入れ協力企業及び派遣期間	派遣国	派遣人数	派遣者所属高専	備考
◆応募者数: 34名(26高専)	1	(株)荏原製作所 平成23年8月14日~9月3日	アメリカ	3名	茨城、宇部、久留米	新規
◆派遣者数: 7名(7高専)	2	(株)カネカ 平成23年9月4日~25日	マレーシア	2名	福井、熊本	新規
◆新規受入れ協力企業: 2社	3	大成建設(株) 平成23年8月19日~9月10日	トルコ	2名	仙台、明石	

第2次日程(春季)	NO.	受入れ協力企業及び派遣期間	派遣国	派遣人数	派遣者所属高専	備考
◆応募者数: 38名(23高専)	1	(株)小松製作所 平成24年3月4日~23日	インドネシア	2名	仙台、香川	
◆派遣者数: 14名(12高専)	2	新日鉄エンジニアリング(株) 平成24年3月4日~26日	タイ	2名	木更津、徳山	
◆新規受入れ協力企業: 1社	3	TANAKAホールディングス(株) 平成24年3月4日~25日	シンガポール	2名	鈴鹿、都城	新規
	4	ツネイシホールディングス(株) 平成24年3月4日~24日	フィリピン	3名	鳥羽商船、香川、新居浜	
	5	東洋エンジニアリング(株) 平成24年3月4日~25日	マレーシア	2名	松江、鹿児島	
	6	ヤマハ発動機(株) 平成24年3月4日~25日	ベトナム(初)	3名	沼津、鈴鹿、明石	

2012年度 国立高専 第3学年編入学試験(外国人対象)

国際交流室

国立高専機構は、外国人を対象とした第3学年編入学試験を、全国立51高専が参加して実施しました。

入試概要

- ◆願書受付期間: 平成24年1月6日(金)~12日(木)
- ◆面接試験: 平成24年1月24日(火)
- ◆合格発表: 平成24年2月15日(水) 国立高専機構公式ホームページ上にて

入試データ

国籍別データ	国名	志願者数	受験者数	合格者数
	ベトナム	26 (4)	24 (3)	11 (1)
	中華人民共和国	11 (4)	11 (4)	6 (2)
	マレーシア	4 (2)	4 (2)	3 (2)
	バングラディッシュ	1 (0)	1 (0)	0 (0)
	合計	42 (10)	40 (9)	20 (5)
	(参考) 2011年度	57 (12)	56 (8)	19 (5)

()は女子、内数

志望分野別データ	第一志望学科の分野	志願者数	受験者数	合格者数
	機械系	13 (0)	13 (0)	6 (0)
	電気・電子系	3 (0)	2 (0)	2 (0)
	情報系	9 (0)	9 (0)	5 (0)
	化学系	6 (5)	5 (4)	5 (4)
	建設・建築系	9 (4)	9 (4)	2 (1)
	その他	2 (1)	2 (1)	0 (0)
	合計	42 (10)	40 (9)	20 (5)

()は女子、内数

高専・学科別合格者数		
高専名	学科名	人数
釧路高専	情報工学科	1
茨城高専	物質工学科	2
群馬高専	物質工学科	1
東京高専	機械工学科	1
	情報工学科	2
	物質工学科	1
長岡高専	機械工学科	1
	環境都市工学科	1
長野高専	機械工学科	1
	電子情報工学科	1
鈴鹿高専	生物応用化学科	1
	材料工学科	1
明石高専	建築学科	1
津山高専	機械工学科	1
	電気電子工学科	1
	電子制御工学科	1
	情報工学科	1
大分高専	機械工学科	1
		合計 20名

モデルコアカリキュラム(試案)素案の8地区説明会

平成23年度は、高専の技術者教育にとって、重要な年となりました。大学における技術者教育の「分野別の到達目標」(≒コアカリキュラム)の設定とまさに期を同じくして、高専の到達目標「モデルコアカリキュラム(試案)」を策定したことです。

平成20年度に「高専教育の高度化検討専門部会(現:教育内容・方法の改善検討専門部会)」を設置して、カリキュラム調査(悉皆調査)を踏まえた、高専教育の高度化の検討が始まりました。全国高専から多くの教員が招集され、約3年間の議論を経ての成果といえます。その間、平成22・23年の全国高専教育フォーラムでの説明会とパネルディスカッション、平成23年8月～10月の意見募集(教員個人)と12月～翌1月の意見募集(学校/学科)により多様な意見を収集して取りまとめた基礎とした次第です。なかでも平成23年の全国高専教育フォーラム以後の全国8地区における説明会は、各高専の教務主事(副校長)と直接意見交換を行いました。

モデルコアカリキュラムとは、技術者教育の質保証や高専学生の自主性向上と併せて高専の個性を引き出すものであり、全教職員がこれを十分に理解し一丸となって教育力向上に努める、そんな礎となるものです。

モデルコアカリキュラム(試案)素案の8地区説明会

地区名	日程	場所	集会名	世話校
北海道	2011/12/16	北海道大学(札幌市)	(臨時)教務主事会議	苫小牧
東北	2011/12/02	仙台ガーデンパレス(仙台市)	教務主事会議	仙台(広瀬)
関東信越	2011/12/03	東京高専	教務主事会議	東京
東海北陸	2011/11/17	ガーデンホテル金沢(金沢市)	教務主事会議	石川
近畿	2011/11/19	明石高専	モデルコアカリキュラム説明会	明石
中国	2011/12/16	広島経済大学(広島市)	高専教員研究会	呉
四国	2011/11/17	阿南高専	教務主事会議	阿南
九州・沖縄	2011/10/13	沖縄高専	教務主事・専攻科長会議	沖縄



▲沖縄高専教職員も説明会に参加

高専改革推進経費事業の現地視察

高専改革推進経費は、各高専に改革を促し、その成果を他高専に波及させることを目的として、高専間連携を前提とした、①教育体制・教育課程に関する改革推進、②国際性の向上に関する改革推進、③高専の情報発信に関する改革推進の3つの事業区分で支援するものです。

高専機構本部教育研究調査室は、本推進経費の採択事業に対し、現地視察を含めて逐次進捗状況を確認することで、事業推進のフォローアップを行っています。平成23年度の現地視察は、富山高専の新規採択事業2件、香川高専の継続事業2件、熊本高専の新規採択事業2件、佐世保高専の継続事業1件の、計4高専、7事業に対して実施しました。いずれの高専でも、事業代表者及び実施担当関係者から、これまでの実施内容や成果、今後の展開について、資料にもとづいて詳細な説明を頂きました。今後は、これまで以上に高専間の連携強化を見据えて事業を展開し、その成果を次年度の全国高専教育フォーラム(東京開催)での事例発表会及び実践事例集などを通じて広く公表することとなります。



▲富山高専における事業の一環として実施された「企業に学ぶ講演会」の様子(事業名:国際的に活躍する実践的な技術者への「ロードマップ」)

▲熊本高専における事業の一環として実施された子供向けサイエンスイベントの様子(事業名:高専サイエンス支援ネットin九州沖縄)

オムロン株式会社との共同教育事業

～制御技術セミナー及び東日本大震災の被災県高専支援事業～

オムロン株式会社と国立高専機構は、ものづくりの現場で即戦力として活躍する制御技術者を育成するため、多様な共同教育プロジェクトを展開しています。

その一環として平成23年9月～12月にかけて制御技術セミナーが開催されました。本セミナーは平成20年度から毎年実施しているもので、今年度、計47名の教職員が、基礎コース、応用コース(それぞれ東京及び大阪会場2回ずつ)において受講しました。

また、今年度は、東日本大震災による被災県高専への支援事業を新たに提案頂き、世界最先端の制御技術の展示会「システムコントロールフェア2011(11月16日～18日・東京ビッグサイト)」への制御系学科学生の見学研修の支援(旅費、宿泊費など)を頂きました。具体的には、仙台高専・電子制御工学科3年生、同・電気工学科3年生、福島高専・電気工学科4年生、茨城高専・電気制御工学科3年生の計3校4クラスが参加しました。特に、福島高専のクラスでは、フェア参加の前後に他企業製造現場への見学スケジュールを組み入れ、震災により中止を余儀なくされていた県外工場見学(研修旅行)を実施することができました。



▲システムコントロールフェア(SCF)会場にて記念撮影(仙台高専・電気工学科3年)



オムロン社のご支援によりSCF参加に合わせ他企業を見学する福島高専の学生(株式会社日立メテック柏事業所にて)

ICT技術で世界に挑戦!～ITリーダー育成キャンプ～

マイクロソフト社・国立高専機構 高度IT人材育成事業

国立高専機構はマイクロソフト株式会社と連携し、ICT技術者のリーダーとして必要とされるスキルを総合的に習得し、世界に通用する技術者を育成する高度IT人材育成事業を実施しています。

その一環として、平成24年1月7日(土)～9日(月)、日本マイクロソフト社・品川本社において、平成23年度ITリーダー育成キャンプが行われました。キャンプには、書類選考による10高専33名の学生が参加し、システム開発工程、プロジェクトマネジメントに必要な基礎知識、チームマネジメント、ロジカルコミュニケーション・プレゼンテーションスキル、ビジネスモデルの考え方など、中身の濃い実践的な講義と演習を受講しました。今年で4回目となるキャンプでは、新たな試みとして、インターネット会議によりシステム開発に関する事前指導の実施や、キャンプへの指導教員の参加を行いました。参加の学生及びこれを含むグループは、今後、イマジンカップ(マイクロソフト社主催)世界大会にも挑戦することとなります。異なる高専ながら、同じ目的意識を持つもの同士が、世界での活躍を視野とした高度の教育や互いの交流を通して、個々のスキルやモチベーションを高めあう有意義なキャンプとなりました。



▲グループワークによりモチベーションアップ



キャンプ終了後の記念撮影▶

日本丸のセイルドリルを見学

報告 鳥羽商船高専 石田 邦光教授

平成23年11月5日(土)から6日(日)、名古屋港の開港祭に寄港する航海訓練所練習帆船「日本丸」および「海王丸」にあわせて、鳥羽商船高専練習船「鳥羽丸」も同祭に参加いたしました。「日本丸」と「海王丸」はセイルドリル(セールを広げたりたたんだりする訓練)および一般公開を実施し、「鳥羽丸」は本校PRを兼ねて一般公開および体験航海を実施しました。日本丸には全国5校の商船学科の実習生が乗船しており、彼らのセイルドリルを見学することができました。日本丸においては船上から見学する機会を与えていただき、鳥羽商船高専商船学科を志望する中学生を中心に9名が参加しました。見学は、帆船の運航に詳しい航海訓練所の船長から解説を聞きながら行われました。見学した中学生たちは、初めての光景に目を光らせ、たくましい実習生の姿を見て、皆感動したようです。また、鳥羽丸での体験航海では、両船のセイルドリルを67名の方々に洋上から航海訓練所の船長による解説を聞きながら見物していただきました。鳥羽商船高専では、本航海を毎年行っていますが、実施については名古屋港管理組合、名古屋みなと振興財団および航海訓練所の多大なご支援を賜っており、改めてこの場をお借りして心から感謝申し上げます。



▲日本丸にてセール(帆)を張る乗船実習を行う高専生たち



高専生によりセールを張った勇姿を見せる日本丸(左)と海上技術短期大学の学生が担当した海王丸(右)

K-Skill プロジェクトが「第8回日本 e-Learning 大賞」奨励賞を受賞

報告 仙台高専 與那嶺 尚弘准教授

仙台高専は、函館高専、八戸高専、秋田高専、鶴岡高専、福島高専、長岡高専、石川高専、長野高専、沖縄高専と連携し、「超広域連携に立脚した高専版組込みスキル標準の開発と実践」に取り組んでいます。この事業は、高専版組込みスキル標準の策定を通してスキルの可視化を行い、質保証された学生の輩出を目的とするもので、平成21年度文部科学省大学改革推進等補助金「大学教育充実のための戦略的連携支援プログラム」に選定されています。

このたび、第8回日本 e-Learning 大賞において、本プロジェクトが奨励賞を受賞しました。日本 e-Learning 大賞は、新しいeラーニングの可能性を例証しブロードバンド社会におけるeラーニングの健全な発展、市場の確立およびコンテンツ・サービス提供企業の育成を支援することを目的として、e-Learning Awards フォーラム実行委員会(実行委員長:電気通信大学大学院 岡本敏雄教授)ならびに日本工業新聞社(フジサンケイビジネスアイ)によって設立されました。経済産業省、文部科学省、総務省、厚生労働省から後援をうけ、多くの応募者から選定される権威ある賞です。奨励賞は、「極めてユニークな取り組みが認められ、今後の活動を奨励する作品」が表彰対象となっています。



▲賞状



▲岡本実行委員長(右)から表彰を受ける仙台高専與那嶺 尚弘准教授



▲「第8回日本 e-Learning 大賞」各賞受賞者

アグリビジネス創出フェアに出展

国立高専機構は、平成23年11月30日(水)から12月2日(金)に幕張メッセ(展示ホール6)において開催された「アグリビジネス創出フェア2011」(主催:農林水産省、後援:文部科学省他)に、国立4高専の研究成果を出展しました。

「アグリビジネス創出フェア」では、毎年、農林水産・食品産業分野における研究機関等の最先端技術シーズや研究開発成果の実用化を支援する展示及びプレゼンテーションが行われます。

今年のフェアの特徴は、例年の基調講演やセミナーなどのプログラムに加え、震災復興のテーマが多数用意されたところにあります。

国立高専機構からは、全国51高専のうち、食品分野に一関高専の「キチン単糖誘導体の製造方法および製造装置」と松江高専の「食品の解凍・冷蔵保存方法および装置」、環境分野に仙台高専の「環境・熱エネルギー制御システム」と阿南高専の「竹繊維材製造機、竹繊維材の製造方法、及び竹繊維材」の研究成果を展示しました。

また、沖縄高専が「米粉の低コスト製造を可能とする瞬間的高圧処理システムの実用化研究」と題して熊本大学と共同展示を行いました。

これらの展示に対し、多くの来場者から研究内容に強い関心が示され、今後の共同研究並びに商品化などに向けて期待が寄せられるところです。

国立高専機構では、新たなアグリビジネスの創出及び産学官連携活動に向け、様々な機会を捉えて全国に情報発信していきたいと考えています。



▲高電圧を印加することにより肉・魚類を冷凍するようにした「高電圧を用いた電界冷蔵庫」の説明をする松江高専、箕田准教授



▲加熱も、水浸・乾燥も不要な「米粉の低コスト製造を可能とする瞬間的高圧処理システムの実用化研究」を説明する沖縄高専関係者

【アグリビジネス創出フェア】国立高専の展示一覧

- | | | |
|------|---|--|
| 食品分野 | ○国立高専機構 | 一関高専 物質化学工学科 准教授 長田 光正 「キチン単糖誘導体の製造方法および製造装置」 |
| | 松江高専 電気工学科 准教授 箕田 充志 「食品の解凍・冷蔵保存方法および装置」 | |
| 環境分野 | ○熊本大学・沖縄高専 | 沖縄高専 校長 伊東 繁 「米粉の低コスト製造を可能とする瞬間的高圧処理 システムの実用化研究」 |
| | ○国立高専機構 | 仙台高専 地域イノベーション名取センター 教授 内海 康雄 「環境・熱エネルギー制御システム」 |
| | 阿南高専 機械工学科 教授 西岡 守 「竹繊維材製造機、竹繊維材の製造方法、及び竹繊維材」 | |

高専一技科大 新技術説明会を開催

平成23年12月6日(火)、東京・市ヶ谷のJSTホールにおいて、国立高専機構、国立大学法人長岡技術科学大学(以下、「長岡技科大」)及び独立行政法人科学技術振興機構(以下、「JST」)主催、国立大学法人豊橋技術科学大学(以下、「豊橋技科大」)共催により、「高専一技科大 新技術説明会」を開催しました。

説明会に先立ち、国立高専機構・五十嵐理事、JST・小原理事より高専、技科大における産学連携の取組などについて主催者の挨拶があり、その後、「製造技術、計測」をテーマとして高専5名、技科大3名の教員が未公開特許出願の発明(7件)を含め研究成果の新技術をアピールしました。

今回の参加者数は58名、延べ人数241名と比較的少なかったものの、説明後の個別相談では、例年どおりの相談件数(11件)があり、発表した新技術に対する関心の高さが示されました。今後の共同研究や特許創出、製品化などに向けて期待が寄せられるところです。

最後に、長岡技科大・高田理事により、閉会の挨拶があり、本説明会が終了しました。

高専一技科大 新技術説明会の発表テーマと教員一覧

- 供給方法を改良した高効率連続傾斜シクナーの開発
苫小牧高専 物質工学科 教授 平野 博人
- スギ間伐材を微粉碎した牛の濃厚飼料の製造方法
秋田高専 物質工学科 教授 上松 仁
- 回転翼等の可動部がなく設計自由度が高いガスポンプ
有明高専 機械工学科 准教授 坪根 弘明
- 傾斜プラネタリ加工による高効率な CFRP 穴あけ技術の開発
長岡技術科学大学 工学部 機械系 助教 田中 秀岳
- ガラス結晶化プロセスによる二次電池用正極活物質の合成
長岡技術科学大学 工学部 物質・材料系 助教 本間 剛
- オンサイト計測可能な土壌中の水分量・イオン濃度計測センサ
豊橋技術科学大学 テーラーメイド・バトンゾーン教育推進本部 特任助教 二川 雅登
- 食品の鮮度評価に最適な濁度の測定法
木更津高専 機械工学科 准教授 小田 功
- スペクトル拡散を利用した低速・長距離無線通信技術
東京高専 情報工学科 教授 土居 信数

※上記パンフレット一覧表 URL <http://jstshingi.jp/kosen-nt/2011/index.html>



▲国立高専機構・五十嵐理事の開催挨拶



▲有明高専・坪根准教授

土木研究所と連携・協力の推進に関する協定を締結

国立高専機構は、平成23年12月7日(水)、国立高専機構竹橋オフィスにて、独立行政法人土木研究所と連携・協力の推進に関する協定を締結しました。

高度経済成長期に大量に建設された橋梁の老朽化が社会的に問題となる中、国や都道府県、政令指定都市と比較して技術者数・技術力に乏しい市町村では対応が難しく、市町村道路管理者の維持管理技術力の向上が求められています。

現在、13の国立高専(福島・群馬・石川・福井・舞鶴・和歌山・明石・徳山・呉・香川・阿南・高知・熊本)建設系教員が協力して「橋の老朽化対策研究会」を立ち上げ、市町村管理橋梁の老朽化対策に取り組んでおり、土木技術のスペシャリストである土研と連携・協力することにより、市町村へのより効果的な支援を全国規模で展開・推進することが可能となります。

協定締結式では、林理事長と土木研究所・魚本理事長の挨拶や香川高専・嘉門校長の協定締結の趣旨説明が行われ、国立高専機構の強みである人材育成機能と土木研究所の強みである土木技術の研究開発機能のマッチングを推進していくこととしました。

協定締結により、両機関の協力可能な全ての分野における人材育成・産学共同教育の相互支援、研究開発などの具体的な連携・協力を効果的に推進し、我が国の学術及び産業技術の振興に寄与するとともに、社会基盤の整備と維持管理を通じて地域社会に貢献して参ります。



▲林理事長の挨拶



▲連携・協力に関する協定書に署名した両理事長

建設技術展2011 in 近畿に出展

報告 舞鶴高専 玉田 和也教授

舞鶴高専建設システム工学科では、毎年同校地域共同テクノセンターの支援を受けて、建設技術展 in 近畿への学校ブースを出展しています。昨年の建設技術展2011 in 近畿では、「防災」「環境」「コスト縮減」「安全・安心」「施工」「IT・ロボット」「団体」「学校」の8分野に約350の技術展示があり、2日間で延べ14,236名の参加者がありました。また、開催イベントとしては「強靱な国づくりとインフラ整備」「地震防災フォーラム」等の講演会やブリッジコンテスト、学生のためのキャリア支援、土木実験・プレゼンテーション大会など盛りだくさんの内容がありました。

舞鶴高専からは、「舞鶴市の建設工事発生土の有効活用」と「固有振動数による橋梁の健全度評価」に関するパネル展示を行いました。研究の内容について専攻科の学生が来場者の方々に説明をするのですが、現役技術者の方からの質問にたじろぐ場面が度々ありました。一方、最新の技術展示やキャリア支援説明会への参加によって、実社会の動向や自分自身の将来を考える良い機会になったようです。また、我々教員も各企業ブースで新技術の情報収集と同時に就職開拓も行い、さらに土木実験のプレゼンテーションに刺激されオープンキャンパスや公開講座の教材開発についての情報収集や意見交換を行うなど、充実した2日間でした。



▲説明する学生



▲土木実験の様子

国際フロンティア産業メッセ2011に出展

報告 奈良高専 土井 滋貴准教授

平成23年9月21日(水)から22日(木)に神戸国際展示場2号館(神戸ポートアイランド)において開催された「国際フロンティア産業メッセ2011」産学連携・支援機関ゾーンに、奈良高専が「産学交流室の紹介・産学連携・人材育成事業」を出展いたしました。

このイベントは21世紀に飛躍する産業を創出するため2001年にスタートし、企業や大学・研究機関による先端技術の紹介や新事業創出の基盤となる製品展示を中心に、基調講演・各種セミナーや交流会など多彩なプログラムが並行して展開されています。また、ひょうご環境ビジネス展、みなと元気メッセ2011、他3イベントが同時開催されるなど、技術・ビジネス交流を進める機会がふんだんに盛り込まれた盛大なイベントです。

当日は、17,253名の来場者にも恵まれ、今回のテーマに対する各企業の関心の高さがうかがわれました。本校からは、産学交流室と、「地域再生人材創出拠点の形成 - 元気なら組み込みシステム技術者の養成」事業チームが参加。研究成果や人材育成事業について展示発表し、共同研究や特許創出、製品化など技術移転に繋がる話し合いが熱心に行なわれました。



▲会場の様子

2つのイベントを通して「新規生分解性高吸水高分子」について発表

平成24年2月9日(木)から10日(金)、JST東京別館ホール(東京・市ヶ谷)で開催された「A-STEP 探索タイプ新技術説明会」(60テーマ発表)および29日(水)、アキバホール(東京・千代田区)で開催された「JSTイノベーションプラザ・サテライト発シーズ発表会 Final!」(16テーマ)において、苫小牧高専・甲野裕之准教授が発表を行いました。「A-STEP探索タイプ新技術説明会」では、「多糖類を原料とする新規生分解性高吸水高分子」を、「JSTイノベーションプラザ・サテライト発シーズ発表会 Final!」では「脱石油社会の実現に向けた生分解性を有する新規吸水性マテリアルの創成」をそれぞれ報告しました。高吸水樹脂(以下「SAP」)は大量の水を吸収してゲル化し、圧力をかけても離れない保水機能を持つ高分子材料です。用途は紙おむつから農業・園芸、土木・建築、化粧品、電気・電子産業など様々な川下分野の製品に適用拡大しています。しかし、SAPは他の合成高分子と同様に石油資源から合成され、石油資源の枯渇、原油価格高騰に伴う製造コストの問題、使用後の廃棄によるCO2排出や生態系の破壊等の環境汚染問題等の意識の高揚から、社会ニーズに基づく再生資源を活用した新規生分解性機能を有する代替材料の新規開発が急務です。生分解性SAPの開発は地球上に最も多く存在する植物細胞壁の主成分であるセルロース等をメインに、水和ゲルへの新しい変換技術の開発を進め、既存のSAPの十数倍の超吸水性や、生分解性・電解質吸水性等で他と差別化を図った新規生分解性高吸水高分子を発明しました(図1)。

想定される用途については、図に示す適用を計画しています(図2)。応用例では、土壌中には多くの無機成分が含まれ、又肥料、農薬などにも無機塩などの電解質成分が多く含まれ、電解質水溶液に対する高い吸水力と生分解性のセルロース系のSAPの特徴を生かす農業への利用例を示します(図3)。今回発明したセルロース等をメインにしたSAPは極めて高い吸水力を持ち、電解質水溶液と酸性水溶液に対する吸水力低下を改善できることが明らかで、安定した吸水性能を示します。更に分解後の環境に対する非毒性の低い利点を有します。共同研究を希望する企業や団体、技術相談を希望する企業等と調査・打合せを行い、従来の個別対応共同研究から高専間連携によるプロジェクト型複合・融合型共同研究計画を推進し、オープンイノベーションによる製造化・事業化支援と技術移転の二極活動を進めていきます(図4)。

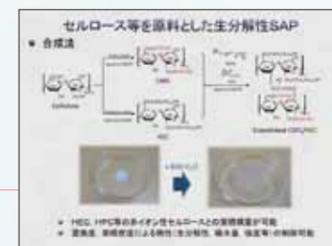


図1 セルロース等を原料とした生分解性SAP



図2 想定される用途

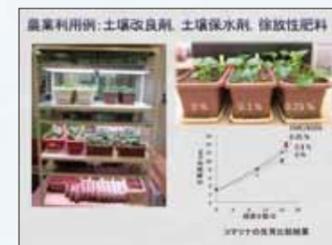


図3 農業利用例

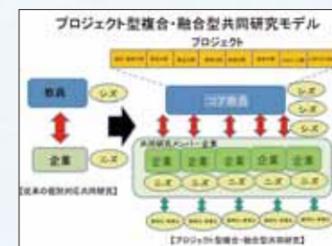


図4 プロジェクト型複合・融合型共同研究モデル

第6回モノづくり連携大賞 「中小企業部門賞」を受賞

報告 群馬高専 小島 昭特命教授

群馬県は、産学官の英知を結集して県の抱える課題を解決する(独)科学技術振興機構からの委託開発事業：地域結集型研究開発プログラムを実施しました。研究費総額22億円、研究員80数名、参画20機関、5年間(平成18～22年)、研究課題「環境に調和した地域産業創出プロジェクト：畜産環境改善技術の創出」。私は、研究代表者の任に当たり目的達成のため参画した研究者にお願いしました。この研究は、「国民の血税による研究、国民からの説明責任がある。研究ごっこではない。国民が理解できる成果をだす」。本プロジェクトの実施により多方面で優れた成果が誕生しました。高性能脱臭装置、高度排水処理装置、アオコ発生防止材などが商品化販売されました。特許50数件出願、学術論文96報、学会発表245報が誕生。これは産学官の連携が極めて円滑に機能したからです。群馬県の農商工連携による「畜産県、群馬の連携プロジェクト」が評価され、平成23年10月21日に日刊工業新聞社主催第6回モノづくり連携大賞(中小企業部門賞)を受賞しました。現在は、普及促進、事業化・企業化促進、研究発展に精力的に取り組んでいます。



▲表彰状をいただいて



▲研究成果報告書の表紙

第6回モノづくり連携大賞 「日刊工業新聞社賞」を受賞

報告 鈴鹿高専 宗内 篤夫教授

平成23年11月9日(水)、日刊工業新聞社主催第6回モノづくり連携大賞が発表されました。その中の日刊工業新聞社賞を鈴鹿高専材料工学科・宗内篤夫教授が受賞しました。受賞案件は「産学官連携による次世代全固体ポリマーリチウム二次電池の開発」。これは三重県産業支援センターを中心とするクラスター事業で、三重県工業研究所、高度部材イノベーションセンター、鈴鹿高専、三重大学次世代型電池開発センター、キンセイマテック、クレハエラストマー、新神戸電機、凸版印刷、明化成化学工場の産学官が参加し平成20年から連携を行っている事業です。

次世代全固体ポリマーリチウム二次電池は、三層構造のシート型で45mmと薄くて折り曲げられ、また固体ポリマーを使用し安全性を高めている電池。

この事業で宗内教授は全固体ポリマーリチウム二次電池の電池性能評価(充放電試験、熱解析による充放電特性解析)を担当し、新規着想点での解析により、高度な評価解析を行いました。

今後は実用化に向けて、製造技術開発と更なる積層と電圧等の性能アップを目指していきます。



▲評価用電池を曲げる宗内教授

「セミコン・ジャパン2011」の 「The 高専@セミコン」で 国立7高専が日頃の研究成果を発表

平成23年12月7日(水)から9日(金)幕張メッセで開催された世界最大の半導体製造装置・材料の総合展示会である「セミコン・ジャパン2011」出展企業ブース内に、高専等の学生へ研究発表の場を提供することを目的に「The 高専@セミコン」特設ブースが設けられ、日頃の研究成果が展示されました。

今回出展企業のサポートを受け参加した国立高専は7高専で、高専の学生たちはブースを訪れる企業関係者等に熱心に説明を行い、大変盛況でした。

また、各特設ブースにおいて「The 高専プレゼン大会 in Semicon」が行われ、プレゼンテーション能力の向上とともに、多くの専門家と接し、研究についても、様々な励ましや助言等を得ることができ、貴重な体験ができました。

高専の若きエンジニアによるアイデアにあふれた技術の成果発表を通して、高専のものづくりへの関心を高めることができ、また、高専に興味を持ってもらうきっかけになりました。

最後に、ご協力いただいた多くの関係の皆様に対してこの場を借りて感謝申し上げます。

参加国立高専(サポート企業)

- 八戸高専(株式会社日本マイクロニクス)
- 東京高専(株式会社アドバンテスト)
- 舞鶴高専(株式会社堀場製作所/株式会社堀場エステック)
- 松江高専(大日本スクリーン製造株式会社)
- 香川高専(株式会社ニコン)
- 高知高専(株式会社アルバック)
- 熊本高専(株式会社荏原製作所)



▲八戸高専の様子

▲松江高専の様子

「科学・技術フェスタ in 京都2011」にアイデア勝負! 「高専ロボコン in 京都」と 「高専ロボット教室」を出展

国の機関が協力して国民に広く最先端の科学・技術に触れる機会を提供するイベント「科学・技術フェスタ in 京都(内閣府・文部科学省等主催)」が昨年12月17日(土)から18日(日)に国立京都国際会館で開催され、国立高専機構は「アイデア勝負!「高専ロボコン」 in 京都」と「高専ロボット教室～ロボットを操縦してみよう!～」を出展しました。

出展したのは「高専ロボコン2011ロボ・ボウル」に出場した近畿地区4高専(舞鶴・明石・奈良・和歌山)と全国大会でアイデア賞を受賞した小山高専、技術賞を受賞した北九州高専のロボットと各高専の学生が独自に制作したロボットです。

「アイデア勝負!「高専ロボコン」 in 京都」では、会場の天井が大会の時よりも低かったため、安全に配慮して能力全開でのデモを実施することはできませんでしたが、素早い2足歩行と迫力あるボール発射に会場からたくさんの観客の皆様から大きな拍手をいただきました。

また、ロボコンのデモに続いて実施された「高専ロボット教室」にはたくさんの「ちいさな操縦者」が集まり、各高専の学生が制作した自慢のロボットを操縦したり、学生に質問したりして、大変盛り上がりしました。

国立高専機構のブースには、古川科学技術政策担当大臣と中川文部科学大臣も立ち寄ってください、激励いただきました。

国立高専機構は、子どもたちにこうした科学・技術に触れる機会を今後も積極的に実施して参ります。



▲こっちゃんおいでよ スーパーザウルス君

アイデア対決・全国高等専門学校ロボット・コンテスト(通称:ロボコン)

開催日:平成23年11月20日(日)
会場:国技館

全国大会 競技結果

受賞名	学校名(チーム名)	ロボット名
ロボコン大賞 優勝	仙台高専 (名取キャンパス)	OR (オーアール)
準優勝	福島高専	最強砲 (サイキョウキャノン)
アイデア賞	小山高専	速球ばらボルト (ソッキュウバラボルト)
技術賞	北九州高専	ViGo (ヴィーゴ)
デザイン賞	豊田高専	飛・飛・飛 (ヒ・ミ・ツ)

受賞名	学校名(チーム名)	ロボット名
ロボ・ボウル賞	長野高専	Impulse(インパルス)
特別賞 本田技研工業株式会社	松江高専	撃蛙(ウチカエル)
特別賞 マブチモーター株式会社	一関高専	空(クウ)
特別賞 株式会社安川電機	有明高専	おおむたん
特別賞 東京エレクトロンFE株式会社	小山高専	速球ばらボルト (ソッキュウバラボルト)



▲史上2校目となるW受賞を果たした仙台高専の攻撃ロボット



▲表彰式後の様子

高専生の声

櫻井 伸之介君(仙台高専建築学科4年)
作りたいロボットを作り上げ、優勝できたことが本当にうれしかったですし、ロボコン大賞と呼ばれた時はとても驚きました。苦勞もたくさんありましたが、頑張ってきて本当に良かったと感じています。応援してくださった皆様本当にありがとうございました。

指導教員の声

櫻庭 弘教授(仙台高専電気システム工学科)
当たり前のことかもしれませんが、きちんと「スタートゾーンを出す」ことができるロボット、いつでもちゃんと動くロボットを作ることが大事であると考え、指導しています。その上に、学生たちのフレッシュなアイデアが生きているのだと改めて実感した今回の大会でした。

全国高等専門学校プログラミング・コンテスト(通称:プロコン)

開催日:平成23年12月22日(木)~23日(金)
会場:舞鶴市総合文化会館

課題部門

受賞名	学校名(チーム名)	作品名
最優秀賞(文部科学大臣賞)	香川高専(高松キャンパス)	スマートアンブレラ
優秀賞	一関高専	Floor→Flow Navigator
特別賞	松江高専	MAPHIS 一歩いて広がる歴史の世界
	米子高専	Snap Swap Trimap 一携帯端末による景観再現・創造
	木更津高専	旅Navi 一これ一つであなたの旅を快適サポート
敢闘賞	石川高専	たびどあ!
	舞鶴高専	とらりず 一ノートを書き終るまでが旅なのだ
	奈良高専	旅スパス!
	長野高専	カンファイン 一簡単カンファチェックイン
	鳥羽商船高専	地域まとめしよん
	沖繩高専	ShuWord 一手話で旅するお手伝い
	熊本高専(熊本キャンパス)	ぐるりん 一スマートフォンで観光情報を簡単発信
	新居浜高専	BOLT 一BOdy Language Trans lator
	福井高専	TRGP 一Traveler Road Playing Game
	長岡高専	MUSIVEL 一TPO JUKEBOX
	沼津高専	旅管 一「イマドキ」の団体旅行「超」管理システム
	舞鶴高専	PICT COMMY
	八戸高専	僕らのShare Walk 一地元の良いを知る旅支援システム
	熊本高専(八代キャンパス)	旅人 一あなたと私で二人旅
	金沢高専	バシヤナビ! 一現在位置確認システム



▲競技部門の様子



▲表彰式の様子

自由部門

受賞名	学校名(チーム名)	作品名
最優秀賞(文部科学大臣賞)	東京高専	All Lights! 一可視光通信による省電力照明システム
優秀賞	弓削商船高専	いとをかし 一織入しらす
特別賞	久留米高専	micro花 vision
	鳥羽商船高専	うきもち
	茨城高専	放射能早期警戒表示システム(RWADS)
敢闘賞	広島商船高専	iMASATO 一おしゃべり冷蔵庫内管理システム
	八戸高専	すまいる・りふれいん! 一ポランティア情報共有システム
	米子高専	ひろイケ! 一キネクト交響楽団 一指揮者・楽器演奏体感システム
	木更津高専	Book Information Share 一書籍情報共有
	徳山高専	Let's クック 一レッツ クッキング
	香川高専(高松キャンパス)	iFarm 一次世代農作業システム
	長岡高専	習紙 一目指せ!!折紙紙マスター!!
	沼津高専	contactone
	長野高専	Miraimi
	奈良高専	Qloud 一生活に溶け込む新世代クラウドサービス
	鳥羽商船高専	ぶち・やさいふぁくとりー 一ステレオカメラで野菜を育てよう
	舞鶴高専	Crowd Flip 一群衆を取り払え!
	小山高専	space school 一宇宙遊泳を夢見るあなたへ
	沖繩高専	Motion Session
	東京高専	HOSO! 一ホットなお知らせ・すばやくお伝え

高専生の声

坂田 祐将君(久留米高専制御情報工学科3年)
プロコンのような大きな大会での優勝は初めてですし、考えていたアルゴリズムがうまく問題に対応できたみたいなのでとても嬉しいです。しかし、今後の課題もいくつか見えたので、来年はもっと頑張りたいと思います。

指導教員の声

黒木 祥光准教授(久留米高専制御情報工学科)
動的計画法や焼鈍法といったアルゴリズムの利用と工夫のみならず、CPUの並列演算、特殊命令やキャッシュメモリの活用による高速化など、ソフト、ハード双方の面から考える限りのアイデアを募り、選手3名で作り込みを行った成果だと思います。

競技部門

受賞名	学校名(チーム名)	作品名
最優秀賞(文部科学大臣賞)	久留米高専	Ikannnol Mk-II 一この前のうどん美味しかったね
準優勝	宇部高専	GAIST
第3位	有明高専	もうれつスタンプング(仮)
特別賞	広島商船高専	佃煮
	苫小牧高専	思い出のアルバム 一デジタルリマスター版
	福島高専	IRIS 一Img Recover Imprint Sys

全国高等専門学校デザイン・コンペティション(通称:デザコン)

開催日:平成23年11月12日(土)~13日(日)
会場:釧路観光国際交流センター

環境デザイン・コンペティション

受賞名	学校名(チーム名)	作品名
最優秀賞(文部科学大臣賞)	明石高専	デ木ボ木
優秀賞	舞鶴高専	~竹志~
	徳山高専	灯籠の家
審査員特別賞	米子高専	しめり風ノ訪問者
	呉高専	練家~瀬戸内にたてるセルフビルドハウス



▲環境デザイン部門で最優秀賞を受賞した作品「デ木ボ木」

構造デザイン・コンペティション

受賞名	学校名(チーム名)	作品名
最優秀賞(国土交通大臣賞)	米子高専	北の和
優秀賞	米子高専	月下美人
	新居浜高専	Foxtail
日刊建設工業新聞社賞	松江高専	非力な長い腕
審査員特別賞	都城高専	霧島 - Kirishima -
	徳山高専	麒麟



▲表彰式の様子

空間デザイン・コンペティション

受賞名	学校名(チーム名)	作品名
最優秀賞(北海道知事賞)	明石高専	LAVARATORY 一local foothold一
優秀賞	豊田高専	壁を開いてみると 一地域と高専の交わり
	呉高専	島・こらぼ 一過疎の島と高専生~
審査員特別賞	米子高専	ひかりキャンパス 一世界にひらく~
	秋田高専	バスで行こう

高専生の声

安福 和弘君(明石高専建築学科5年)
私は、デザコン2011 in 北海道(環境デザイン・コンペティション部門)に参加し、最優秀賞(文部科学大臣賞)をいただきました。デザコンで全国の高専生と競い合ったことは、とても貴重な経験となりました。

指導教員の声

工藤 和美准教授(明石高専建築学科)
釧路で開催されたデザコンは全国から学生たちが集まり、活気あるものとなりました。主管校、協力校の皆様には大変お世話になりました。学生たちは、競い合うことで多くの刺激を受け、有意義な経験ができた様子です。

ものづくりコンペティション

受賞名	学校名(チーム名)	作品名
最優秀賞(釧路市長賞)	サレジオ高専	OPEN TREE
優秀賞	呉高専	Tongue Box
	明石高専	KAIKAする楽器
審査員特別賞	釧路高専	アイヌの楽器
	明石高専	一年の中で

全国高等専門学校英語プレゼンテーション・コンテスト(通称:プレコン)

開催日:平成24年1月28日(土)~29日(日)
会場:国立オリンピック記念青少年総合センター国際会議室

プレゼンテーションの部

受賞名	学校名(チーム名)	作品名
第1位(文部科学大臣賞)	大分高専	Securing Kosen's Future
第2位	松江高専	Secrets of Success
第3位	東京高専	Don't Be Afraid to Try Something New: Overseas Internship Made Me Grow Up
COCET賞	徳山高専	Kosen Students, Be Motivated!!



▲大分高専によるプレゼンテーションの様子

スピーチの部

受賞名	学校名(個人名)	作品名
第1位(日本国際連合協会会長賞)	横山宣幸(函館高専)	English Fluency Switch On, Lah!
第2位	赤沼亮介(沼津高専)	Teacher and Student Motivation
第3位	西村亮祐(一関高専)	The Great Nature
COCET賞	瀬口竜大(香川高専詫間キャンパス)	You Only Live Once



▲表彰式後の大分高専チームの笑顔

高専生の声

豊饒 映美さん(大分高専制御情報工学科3年)
多くの方に支えていただいたの優勝でしたが、結果だけでなく、4ヶ月間にわたって悩みながらも諦めずに練習を続けてきたことに大きな意味を感じます。練習を通して学んだ多くのことを糧にこれからも日々精進したいと思います。

指導教員の声

穴井 孝義教授(大分高専一般科)
今回の出場は2~3年生によるチームだったため、「低学年だからこそできるプレゼンテーション」に的を絞って指導しました。本戦では上級生チームも多い中、萎縮することなく堂々と演じきり、昨年に引き続いて優勝(文部科学大臣賞)を達成でき、嬉しい限りです。